

研究計画書（共通教育センター）

研究課題	本学における望ましい教職課程カリキュラムの在り方に関する研究 松本裕司 藤井義久
研究期間 (最長3年)	平成20年度 ～ 平成21年度
研究の概要（120字程度） 国内他大学及び諸外国の優れた教職課程カリキュラムについて調査するとともに、新設科目導入に伴う本学教職カリキュラムの課題について、主として「内容」、「方法」、「評価」の視点から分析することを通して、教員の質の向上を目指した教職課程カリキュラムの在り方について検討する。	
中期計画における位置づけ 中期計画において、「教育活動の評価と教育の質の向上のための組織的な取り組み」が明記されている。平成21年度より教職課程カリキュラムが改変されることに伴い、現在の教職課程カリキュラムの現状と課題を析するとともに、本学及び地域の実情に合った教職課程カリキュラムの構築を目指す。	
研究の目的 ①研究の背景 平成18年7月、中央教育審議会は、「今後の教員養成・免許制度の在り方について」を答申した。その答申の中にも書かれているように、教員に対する揺るぎない信頼の確立と教員の資質能力の向上を図るために教職課程の質的向上が今まさに求められている。すなわち、我が国において児童生徒の学力低下が叫ばれている中、教員の資質能力を向上させることは社会的に極めて重要な課題であると言える。なぜなら、PISA 調査において学力世界一になったフィンランドの教育を支えているのは、まさに教員の質の高さであると言われているからである。我が国においても、そうした状況を踏まえ、平成21年度より、教職課程カリキュラムの中に「教職実践演習(仮称)」が導入される予定である。この科目は教職課程の履修を通して培った教員として必要な資質能力を確実に身につけさせるとともに、その資質能力の全体を明示的に確認することを目的としている。従って、科目の新設においては学校現場や教育委員会との緊密な連携・協力を留意するとともに、教育実習を初めとする他の教職科目の教育内容、教育方法、教育評価の調整、変更などが求められるため、現行の教職課程カリキュラムの現状と課題を分析し、その結果に基づいて大幅なカリキュラム改変が必要であると考えらる。	
②研究の目標 本研究においては、国内他大学はもとより諸外国の優れた教職課程カリキュラムの調査、検討を通して、新設科目導入に伴う教職課程カリキュラムの内容や課題、問題点などについて検討する。そして、その検討結果に基づき、地域や本学の現状をふまえた望ましい教職課程カリキュラムの在り方を企画、立案し、実際に試行し、その教育的効果を検証することを通して、本学における教職課程カリキュラム内容、方法、評価の改善を図る。	
③期待される効果 本研究を通して、中期計画で明記されている「教育の質の向上」が図られ、教員の資質能力を高めるために、どういった教職課程カリキュラムが望ましいのかについて明らかになることは、児童生徒はもとより、教育現場及び国全体に多大な貢献をもたらすことにつながる事が期待される。	

研究の計画

1. 研究の優位性・独創性・新規性

工業化社会から知識基盤社会へ、国際的に質の高い教育が求められている今日、ますます教員の質の向上が求められる社会になってきた。文科省では、教員の質の向上を図るために、教職大学院の設置、教員免許の更新制、大学における教職カリキュラムの改変など、様々な取り組みを現在行っているところではあるが、そのような取り組みが果たして真に教員の質の向上に貢献するかどうかは定かではない。恐らく我が国における教員の質の向上に係わる取り組みの成果は、ある程度の期間が経ないと現れないであろう。従って、現在、教員養成に対して先進的な取り組みを行なっている国内はもとより諸外国の教員養成カリキュラムの現状と問題点、効果などについて分析しておくことは、これからの教職課程カリキュラムの在り方について検討していく上で、極めて重要であると考えられる。しかしながら、現在まで、国内及び諸外国の優れた教職課程カリキュラムの現状に関する情報は、これまで断片的で極めて乏しかったといわざるをえない。また、そのような国を超えた教職課程カリキュラムの比較研究も、今まであまり行われてこなかった。以上の理由から、本研究は、新規性が高く、ユニークな研究であると考えられる。

2. 研究の実施方法・取組

(1年目)国内外の教職課程カリキュラムの現状と課題分析

①国内他大学における教職課程カリキュラムの調査、分析

質問紙調査、面接調査、現地調査などにより、国内他大学の教職課程カリキュラムの現状と課題について検討する。

②諸外国の教職課程カリキュラムの調査、検討

文献調査、面接調査、国際現地調査などにより、諸外国の教職課程カリキュラムの現状と課題について検討する。

③地域の実態や本学教職課程カリキュラムの調査、分析

質問紙調査、面接調査、現地調査などにより、本学教職課程カリキュラムの現状と課題について検討する。

④先導的に施行されている「教職実践演習」の調査、分析

先導的に施行されている「教職実践演習」の内容、方法、評価の現状と課題について分析すると共に、本学における「教職実践演習」の内容について検討する。

(2年目)新教職課程カリキュラムの実施と教育的効果の分析

①国内他大学における新教職課程カリキュラムの現状と課題分析

質問紙調査、面接調査、現地調査などにより、国内他大学における新教職課程カリキュラムの現状と課題について分析する。

②「教職実践演習」の教育的効果について検証する。

診断的評価、形成的評価、総括的評価の観点から、授業評価及び「大学生版教員資質能力尺度」を実施し、「教職実践演習」導入の教育的効果について検証する。

③「教職実践演習」の評価の在り方について検討する。

「教職実践演習」の観点別評価表を作成し、「指導と評価の一体化」の視点から、教員の資質能力を高める望ましい教職課程カリキュラムについて明らかにする。